

食糧支援 ニュースレター



TOPICS

- 東日本大震災
WFPと国連 WFP 協会の支援活動
- 食糧価格高騰
一貧しい人々の生活を直撃—
- 富永 愛さん 東日本大震災救援募金を呼びかけ
- 私たちの WFP 支援
株式会社ダイエー
- 国連 WFP 協会 2010 年度
寄付実績報告

東日本大震災 WFP と国連 WFP 協会の支援活動

未曾有の大災害となった、東日本大震災。震災で亡くなられた方々、被災された方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。WFP事務局長 ジョゼット・シーランは3月11日の震災発生日に、「WFPは、日本の役に立てることであれば、どのような支援でも行う用意があります。」との緊急声明を出し、日本政府に対し支援を申し出ました。

その結果、政府から救援物資輸送の分野を中心とする支援要請を受け、震災発生から5日後に支援活動を立ち上げました。総責任者は日本人幹部職員であるWFPアジア地域局長 忍足謙朗です。また国連WFP協会は、WFPの日本での支援活動を通じ被災者を支援するため、「東日本大震災救援募金」を開始しました。政府や被災した自治体、NGO等と協議を重ねた結果、WFPおよび国連WFP協会は次の5つの活動を開始しました。被災地での支援活動をご紹介します。

救援物資の物流拠点を設置

被災地から聞こえてきたのは、「支援活動を行おうにも、物資を入れる倉庫もなければ仕事をするためのスペースもない」という声でした。そこで、WFPは、支援物資を一時保管するための大型テントやプレハブ事務所を建設し、物流拠点を設置する活動を始めました。これらの設備は、被災した自治体や、そこで支援活動を行うNGO・NPO等の団体に提供しています。

ニーズ調査を行った結果、最終的には、大型テント45張と、プレハブ事務所35棟を被災地に設置予定です。被災地では屋根のある公共スペースが不足しており、WFPが設置した長さ32メートルの大型テントが、物資保管以外の思わぬ用途にも活用されています。仮設商店街、慰霊祭の会場、がれきの中から見つかった思い出の品をきれいにし持ち主を探す活動、ボランティアの集会場や悪天時の一時避難場所など、使用目的は様々です。

企業が救援物資として提供する食品の輸送

国連WFP協会(会長：安藤宏基)は、被災地における食糧の需要に応えるため、今まで築いた協力関係を活かし、企業から常温加工食品や飲料の提供を受け、取りまとめています。企業の物資は、WFPが被災地に設置した大型テントを含む救援物資集積場まで輸送し、市町村やNGO等を通じて、被災者の手元へ届けます。



仙台市での大型テント設置の様子



宮城県石巻市。WFP提供のテントをNGOが利用



企業提供の物資到着を確認する国連WFP協会事務局長 横手仁美

各国から日本政府に送られた救援物資を被災地へ輸送

WFPは日本政府の要請を受け、各国から送られてきた救援物資の一部(毛布、水、缶詰など)を、空港や港などで荷受けし、被災地に届けています。荷受・倉庫での一時保管・出荷・輸送などのサービスのほとんどは、WFPとの世界レベルの合意に基づき、TNT、UPS、A.P.MOLLER MAERSK Groupなどの物流会社が無償で提供してくれています。

NGOに即戦力となる人材を提供

WFPは30以上のNGOが参加する人道支援組織「ジャパン・プラットフォーム」に日本人職員4人を即戦力として出向させ、NGOが被災地でを行う支援活動を支援しています。

高カロリービスケットの提供

宮城県の要請を受け、WFPは高カロリービスケット50トンをマレーシアの備蓄庫から空輸し、宮城県の市町村に届けました。

これらの活動を行うため、WFP日本事務所には、全世界から、物資輸送の専門家など25名の職員が続々と派遣されてきました。うち15名が、世界各地で勤務にあたっていた日本人職員です。

被災地では現在、政府や被災した自治体、NGO、企業などが一丸となって、懸命な支援活動が行われています。WFPは、人道支援のプロとしての経験と人材を活かし、また国連WFP協会は日本の民間部門で築いてきたネットワークを活かして、これらの支援活動を底支えしていきます。



各国提供の毛布を被災地へ輸送



WFPが設置したプレハブ事務所を使うボランティア



宮城県南三陸町の避難所にて高カロリービスケットを手渡す知花さん

4月下旬、WFPオフィシャルサポーターの知花くららさんが宮城県南三陸町の支援活動現場を訪れました。その時の様子などをまとめたビデオをYouTubeで公開中です。
<http://bit.ly/ioOPpi>



宮城県南三陸町。WFPの高カロリービスケットを配布

WFPの物資輸送活動

WFPは主に食糧支援を行う国連機関ですが、実は国連随一の輸送集団でもあります。支援を行うのは、大災害や紛争に見舞われた国など、そもそも物資輸送が困難を極めるところが多く、WFPは毎日、飛行機60機、船40隻、トラック4,000台を世界中でフル稼働させ、世界中のどんな場所にも救援物資を届けています。その長年の物資輸送の経験を評価され、今回、日本政府から輸送支援の要請を受けました。

食糧価格高騰 — 貧しい人々の生活を直撃 —

今年2月、国際連合食糧農業機関(FAO)が発表する食料価格指数が237ポイントを記録しました。これは、過去最高値だった2008年の213.5ポイントを上回り、FAOが統計を取りはじめてからの最高値です。その後、3月に指数は若干下がり230ポイントとなりましたが、一年前と比べ37%高い状況で、高止まりが続いています。

WFPが支援する貧しい国々では収入の約6~8割を食糧の購入に充てている人たちがいます。そのような人たちにとっては、少しでも食糧の値段が上がると、同じ額で買える食糧の量が減ってしまうため、食糧価格高騰は死活問題です。世界銀行は、昨年6月以降、食糧価格の高騰により4,400万人が新たに貧困・飢餓に陥ったと推定されると発表しました。

バングラデシュ南部の村で漁業を営むマンドルさんは、食糧価格が高騰し、家族

を食べさせていくことが苦しくなったため、泣く泣く、子ども一人を彼の母親の元へやることにしました。マンドルさんの一日の収入は1ドル以下。コメと野菜の価格は2倍になったため、食事の回数を減らしているといいます。マンドルさんの妻は収入を増やすため、家政婦の仕事を懸命に探しています。しかし、裕福な人々でさえ、食糧価格高騰の打撃を受け、家政婦を雇いにくくなっているのが現状です。

食糧価格が高騰すると、WFPの支援活動にも影響が出ます。なぜなら、食糧価格の高騰で、WFPの食糧支援を必要とする人の数が増えるのにも関わらず、同じ金額で買える食糧の量が減ってしまうため、それを埋め合わせるにはより多くの資金が必要となるからです。

WFPの試算では、食糧価格が10%上昇するごとに、食糧購入のための予算が2億ドル余分に必要となります。WFPは、

価格が比較的安かった2010年のうちに食糧を事前購入したり、食糧が将来必要になりそうな所へあらかじめ食糧を備蓄したりしていたため、食糧価格高騰の影響はまだ比較的小さいものに留まっています。しかし、このまま食糧価格が上昇または高止まりし続けた場合、追加資金が得られなければWFPは資金不足に陥り、配給する食糧の量を減らすか、人数を減らさなければならなくなる恐れもあります。こうした事態を避けられるよう、いま、国際社会からの更なる支援が求められています。



一日1ドル以下で暮らすマンドルさんとその家族

富永 愛さん 東日本大震災救援募金を呼びかけ

WFPオフィシャルサポーターを務める富永愛さんが、4月16日(土)東京・日本橋高島屋で、WFP東日本大震災の救援募金活動に参加しました。

同店の正面ショーウィンドーでは、富永さんをはじめとした人気モデルの皆さんが、WFPの「学校給食プログラム」への支援を呼び掛けるため無償で撮影協力した「WFPチャリティ写真展~Fill the Cup with Hope~」(撮影：宮本直考さん)を4月6日から19日まで開催。これにあわせ、東日本大震災の被災地への支援の輪を広げるべく、WFPのボランティアが募金活動を行っており、富永さんも「被災地の方々に愛と希望を届けたい」との思いで、4月16日、同じく写真展に協力したSONOMIさんや、その他女性・男性モデル計17名と、募金活動に参加してくださいました。

募金箱を手に「東日本の被災者の方々に支援するためご協力ください」と道行く人々に声をかけていただいた結果、16日には、299,262円の街頭募金を集めることができました。富永さんは「支援は

いまだけではなく、ずっと継続していきたい。私のいまの立場を活用して、やれることをやっていきたい」と話しました。

2週間の写真展会期中に日本橋高島屋に設置いただいた募金箱へのご寄付と、更なるボランティアの募金活動により寄せられたご寄付は、合計871,158円となりました。高島屋のご協力を得て実施しているこの巡回展は、今後は以下の予定で開催されます。是非ご来場ください。

巡回展「WFPチャリティ写真展~Fill the Cup with Hope~」

JR名古屋 高島屋 (5階パティオ)

2011年6月1日(水)~13日(月)

玉川 高島屋S・C(南館1階プラザ)

2011年6月15日(水)~28日(火)

<募金活動に参加されたモデルの皆さん>

麻宮彩希、阿南佳那、SANMY、Jay Song、SHUN、JUN、角之倉未来、SONOMI、DIEGO、富永愛、TOMOYA、中田絢千、比嘉バービー、MAO、MATT、山田亮平、山本貴子(敬称略)



左から、富永愛さん、SONOMIさん、古谷恵さん、JUNさん



子どもたちの募金に笑顔で応える富永さん

私たちのWFP支援 株式会社ダイエー

株式会社ダイエーは、2010年9月23日から10月3日の「ダイエー創業祭」期間中、ダイエーグループ各店舗において、WFPの学校給食プログラムに対する店頭募金活動と、指定商品(お菓子、子ども衣料、紙おむつ、文具、玩具、ランドセル、学習机)の売上1%の寄付を行うキャンペーンを展開しました。

同社は、「創業以来、商品を提供していただいた世界中の地域の皆様への感謝と、未来を担う子どもたちの健全な育成に役立てていただきたい」という気持ちを込めて、世界的な食糧問題への取り組みの一環として、同キャンペーンを実施しました。

キャンペーン期間中に店舗来場者より寄せられた募金は458,439円、対象商品の売上金1%の寄付は12,050,285円にのぼり、総額12,508,724円がWFPに寄付され、学校給食プログラムに役立てられました。

小川宏樹IR広報部課長は、「WFPの学校給食プログラムへの寄付は、当社にとって初めての試みでしたが、当社の創業祭期間中の実施ということもあり、多くのお客様より善意の寄付をいただき、大変有意義な活動を行うことができました。」と語りました。

株式会社ダイエーは、キャンペーン終了後の2010年11月、国連WFP協会の評議会にも加入し、飢餓・貧困問題への支援を引き続き実施しています。



キャンペーン時の店内

国連WFP協会 2010年度 寄付実績報告

2010年度(2010年1月～12月)に国連WFP協会に寄せられた企業・団体、個人からの現金でのご寄付は、合計で589,574,765円となりました。2010年は、ハイチ大地震やパキスタン洪水などの自然災害が発生し、多くの人々が大変厳しい生活を強いられることになりました。そのような中、皆様よりWFPの活動に対し、深いご理解と多大なご支援を賜り、誠にありがとうございました。今後も皆様のご理解とご支援を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様からお預かりしたご寄付のうち442,033,486円は、既にWFPローマ本部に送金し、各国で行われているWFPのプロジェクトに活用させていただいております^{注)}。詳しいご寄付の使途とその成果についてはホームページ(www.wfp.org/jp)に随時レポートを掲載いたしますので、是非ご覧ください。

注)お預かりしたご寄付の75%以上はWFPローマ本部に送金され、開発途上国での人道支援活動に活用されます。また、ご寄付の25%の範囲内で、国内での募金活動、広報宣伝費、管理費等の運営経費に充当しております。なお、2010年度に寄せられた上記ご寄付589,574,765円の75%金額442,181,073円と上記送金金額442,033,486円との差額147,587円は、後日WFPローマ本部へ送金いたします。

WFPマンスリー募金にご協力ください

WFPマンスリー募金は、毎月一定の金額をご指定の金融機関口座やクレジットカードから自動引き落としする募金プログラムです。皆様に継続的なご寄付をいただくことで、より多くの人々に持続的な支援が可能になります。

例えば、毎月5,000円を1年間ご寄付いただくことで、12人の子どもに、学校給食を1年間提供できます。詳しくは国連WFP協会にお問い合わせください。

ショクリョウ ハイキョウ
0120-496-819 月曜～金曜(祝日を除く)9:30～17:30

※ご寄付は寄付金控除の対象になります。



©WFP/James Giambone

WFP 国連世界食糧計画日本事務所

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6階
www.wfp.org/jp

国連WFP協会

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6階
TEL . 0120-496-819 月曜～金曜(祝日を除く)9:30～17:30
FAX . 045-221-2534 www.wfp.org/jp